

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：84604

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03597

研究課題名(和文)平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化

研究課題名(英文) Conversion of Wooden Documents Recovered from the Nara Palace and Capital and Their Historic Context into a Global Resource

研究代表者

渡辺 晃宏 (WATANABE, AKIHIRO)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・客員研究員

研究者番号：30212319

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,600,000円

研究成果の概要(和文)：平城宮・京跡出土木簡のデータを地理情報とリンクさせるシステムを開発し、奈良文化財研究所のホームページで、「文化財総覧WebGIS」の木簡検索として公開した。木簡の出土地点を一緒に出土した遺物(今回は墨書土器のみ)とともに表示するほか、地図からその地点で出土した木簡、及び一緒に出土した遺物を検索することができる。また、平城京に関する史料を年代順に集めたうえで、それぞれに簡単な解説を付した「平城京編年史料集成(稿)」と、平城京の住人を史料とともに網羅した「平城京居住者一覧(稿)」を編集し、公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

木簡の出土地点を地図上で把握できるようにすることで、文字情報だけでなく考古資料としての情報をもつ木簡の情報を、総合的に把握できるデータベースを構築できた。今回開発した地理情報をリンクさせたシステムは、出土文字資料のデータベースとしては初めての成果であるだけでなく、全国の遺跡の発掘調査情報の総合的なプラットフォームとして発展可能な汎用性をもつ。一方、「平城京編年史料集成(稿)」と「平城京居住者一覧(稿)」は、かつて編集した「平城宮編年史料集成(稿)」とともに、奈良の都の実態に迫るための基本史料を一覧できる資料集として、都城だけでなく、日本古代史研究全般に広く活用され寄与することが期待できる。

研究成果の概要(英文)：We have developed a system that links the data of wooden tablets excavated from Nara Palace and Capital Site with geographical information, and released it as a wooden tablet search of "General Survey of Cultural Properties WebGIS" on the website of Nara National Research Institute for Cultural Properties. In addition to displaying landing points of the excavation site together with the artifacts recovered at the same site (in this case, only ink-writing pottery), the system also allows users to search for wooden tablets and artifacts recovered at the same site on a map. In addition, we have compiled and published the "Heijo-kyo Chronological Collection (manuscript)," a collection of historical materials related to Nara Capital Site in chronological order with brief explanations for each, and the "List of Inhabitants of Heijo-kyo (manuscript)," a comprehensive list of the inhabitants of Nara Capital Site with their historical materials.

研究分野：日本古代史

キーワード：平城宮 平城京 木簡 出土文字資料 漢字 データベース 東アジア 文字文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

史料の絶対数の限られた日本古代史の研究において、木簡を初めとする出土文字資料への期待は大きい。編纂過程を経ない一次史料である点も、出土文字資料が重視される大きな理由である。しかし、出土文字資料は考古資料としての情報も兼ね備えており、また木製品としての情報も欠かすことができない。文字情報だけでなく、これらの情報を有機的に活用できるようになって初めて、出土文字資料は歴史を描くための生きた資料となる。

しかし、木簡は貴重な文字資料であるが、1点1点が独立して存在しているわけではない。一つの遺構から出土した木簡は、全体として木簡群を形成している。1点ごとではわからないことでも、群の中に位置付けることで、読み解けてくることが多い。また、同じ遺構から出土した、例えば土器、瓦、木製品などの他の遺物と一体として考察することで、遺物全体の解明が進み、さらに遺跡自体の情報を充分活用できれば、木簡の情報はさらに精度を増す。すなわち、考古遺物としての木簡は、それが置かれていた歴史環境全体の中で総合的に判断して初めて、単なる文字資料としてだけでなく、真の歴史資料としての価値を発揮できるのである。

このため、平城宮・平城京跡出土木簡を包蔵する遺跡としての平城宮跡・平城京跡の発掘調査情報を集約し、既往の文献史料とともに活用できるシステムの構築が望まれた。

2. 研究の目的

(1) 平城宮、平城京出土木簡の歴史環境の資源化

平城宮跡について当研究所内の発掘情報の集約を図るとともに、平城京内については、各調査機関の協力を得ながら、公表されている発掘調査成果を一元的に閲覧できるようなシステムを構築し、これと木簡データベース「木簡庫」をリンクさせることをめざす。今回の研究では、地理情報と発掘調査成果をリンクさせることに主眼を置く。当該木簡が、遺跡のどこでどのような遺跡とともに出土しているかを地理的に判断できるようにすることで、個々バラバラの調査成果を一元的に把握できるようにし、遺跡として一体であることを表現できるようにしたい。

これと合わせて、平城京関係史料の集成を行いたい。2003年に編集した『平城宮編年史料集成(稿)』にならって、網文を立て史料の解釈に踏み込んだ使える資料集としたい。

(2) 平城宮、平城京出土木簡のグローバル資源化

本科研では、東京大学史料編纂所のデータベースとの連携を一層推進するとともに、これまでの科研で交渉を進めながら具体的な形での実現には至らなかった韓国木簡との連携を推進したい。

また、中国簡牘研究との連携も重要である。奈文研では2015年に台湾中央研究院歴史語言研究所と研究協約を結び共同研究を進めており、居延漢簡という、限られた、しかし中国簡牘研究の出発点となった史料を有する機関との連携は、紙の発明される前の時代をも見据えた東アジアの木簡の研究に大きな画期をもたらすであろう。

3. 研究の方法

(1) 平城宮、平城京出土木簡の歴史環境の資源化

① 発掘情報、共伴情報の資源化

1) 発掘調査で設定する3m四方のグリッド(地区)単位で木簡をはじめとする遺物の詳細情報を閲覧できるようにし、木簡を取り巻く環境を総体として把握できるようにする。

2) 当該地域の発掘情報の集約

ア、個別の木簡から、それが出土した地区とその周辺の地図及び遺構図（概念図）や発掘調査時の写真をリンクさせ、当該地区出土の他の木簡、一緒に出土した遺物の情報（実測図など）を閲覧できるシステムを構築する。

イ、平城宮（京）内の任意の地点について、遺構図（概念図）を閲覧できるようにし、その中の特定の地点（3mグリッド）から出土した木簡、及び同時に出土した遺物の情報を閲覧できるようにする。

②文献情報の資源化

- 1) 平城京関係編年史料集成(稿)の編集
- 2) 平城宮・平城京関係研究文献の連携資源化
- 3) 木簡情報、発掘情報、史料・研究文献情報の相互リンク

③木簡情報そのものの充実

平城宮跡・平城京跡出土木簡の体系的なカラー・赤外撮影の実施と、「木簡庫」への搭載。

(2) 平城宮、平城京出土木簡のグローバル資源化

- ①連携の枠組みの構築
- ②字形の比較研究
- ③木簡文化の伝播と相互関係の研究

4. 研究成果

(1) 平城宮・京跡出土木簡の歴史環境の資源化

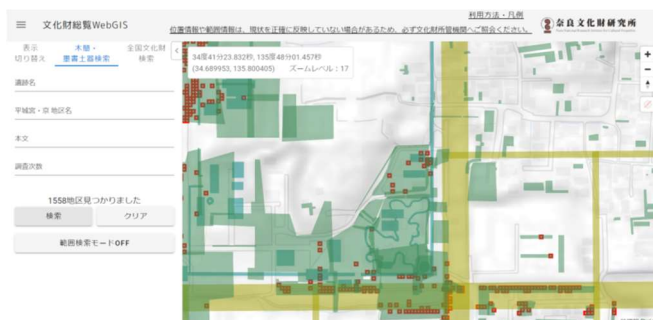
①「文化財総覧 WebGIS」の木簡検索システムの構築

本研究が主たる研究素材としている木簡をはじめとする出土文字資料は、文字資料であると同時に、考古資料としての性格をもつ。そのため、出土文字資料においては、出土地点や出土層位の情報を適切に把握することが、文字情報を史料として用いるにあたって必要不可欠で、両者を総合的に理解することが求められる。

従来の木簡データベースでは、文字情報やこれに付随するメタデータをテキストとして把握することはできたが出土地点や層位を具体的にイメージすることは難しかった。そこで、本科研では木簡の出土地点を地図上で把握できるデータベースの構築をめざした。

その結果、2022年2月に、奈文研の遺跡データベースに基づく全国規模の文化財情報検索システムと連携して開発した「文化財総覧 WebGIS」を公開した。これは地理情報を加味した発掘調査成果（遺構及び共伴遺物）を奈良文化財研究所（以下、奈文研）の木簡データベース「木簡庫」（以下「木簡庫」）にリンクさせるもので、国土地理院の1/25000地形図をベースに、平城宮跡部分に既発掘区と大・中・小地区のグリッドを表示した上で、小地区ごとに出土木簡を一覧表示し、かつURLから「木簡庫」で木簡の詳細を確認できる。ベースには国土地理院の提供する各種地図を始め、空中写真、奈文研作成の奈良盆地1/1000地図も利用できる。

検索方法は2種類ある。一つはテキスト検索で、遺跡名・地区名・木簡本文の語句・発掘調査次数をテキスト入力することで、小地区ごとに出土木簡を一覧できる。もう一つは、地図上の任意の地点を範囲指定することで、そこから出土



文化財総覧 WebGIS 木簡出土地区のグリッド表示

した木簡を検索できる、地図による木簡検索である。

共伴遺物としては、『平城宮出土墨書土器集成』で報告された墨書土器を検索できるようにした。今回は墨書土器のみにとどまったが、その他の共伴遺物を網羅的に搭載できる汎用性を備えている（現在の検索可能小地区は、木簡・墨書土器合わせて、全部で 1558

地区）。これにより、将来的に木簡・墨書土器以外のあらゆる遺物、及び遺構を含めた平城宮・京の発掘調査成果（遺物・遺構）の総合的なプラットフォーム構築の見通しを得た。また「文化財総覧 WebGIS」の機能により、平城宮・京跡だけでなく、全国の遺跡の情報に拡大するのも容易であり、全国規模の遺跡・遺物検索システムのプラットフォーム機能も備え、将来的に汎用性の高いシステムということができよう。但し、「木簡庫」から今回開発した WebGIS への逆方向のリンクは、「木簡庫」の改修を必要とするため、今回の研究の範囲では実現できなかった。

②「平城京編年史料集成(稿)」(平城京に関する文献資料の集成)の作成

平城京について考えるための素材、及び平城京の住人名の典拠となる史料を、『続日本紀』・正倉院文書を主とする諸史料から蒐集し、年代順に排列した(但し、寺院に関する史料は割愛)。

史料の掲載にあたっては、項目ごとに一から五六二までの通し番号を付した綱文を立てた。同一日付の綱文が複数存在する場合や、同一史料を複数の綱文に掲げた場合もある。同一綱文に関連する史料は a、b、c……の枝番号を付して、一括して掲げた。なお、綱文の作成にあたっては、編者の史料検討成果に基づき、かつできるだけ平易な表現を用いるように努めた。また、索引を作成して綱文番号(枝番号がある場合は枝番号も)で示した。

③「平城京居住者一覧(稿)」の作成

平城京に居住したことが確認できる人々に関する史料を、居住地別に一覧できるように整理した資料集を編集した。従来の研究成果として、「位階による官人居住地の分布」「住所のわかる人物一覧」(奈良国立文化財研究所編・奈良市発行『なら平城京展'98』1998年、所収)がある(1から116までの116人を収録)が、図示のみで典拠は明示されていない。そこで、典拠資料も含めて平城京の居住者を再検討の上、一覧できるようにすることを目的として編集した。

一覧した項目は、図録番号(「位階による官人居住地の分布」「住所のわかる人物一覧」における通し番号)、京・条・坊(居住地)、系譜(戸主との系譜関係、戸主・戸口の別など)、戸口名(居住者の氏名)、年齢、年齢区分、官職、位階、備考(居住地に関する特記事項)、年月日、所属(主として、正倉院文書における、所属・巻帙など)、断簡番号(主として、正倉院文書における断簡番号)、大日古巻(『大日本古文書』編年の巻数)、大日古頁(『大日本古文書』編年の頁数)、史料番号通番の計16項目である。同一人に複数の史料がある場合には一括りにし、一人に一つの番号を付すようにした。現在本史料集によって個人名が明らかになっている平城京の居住者は、左京189人、右京335人、不詳4人である(但し、右京から左京への移費者2人は重複するので、実際には計526人)。

なお、本資料集は、「平城京編年史料集成(稿)」の編集過程で生まれた当初予定していなかった研究成果である。逆に、当初計画していた『平城宮編年史料集成(稿)』の増補は、増補すべき事が確認できた史料が多くないため、成果物としてのまとめは割愛した。



文化財総覧 WebGIS 木簡・墨書土器一覧表示の例

④「木簡庫」の研究文献目録拡充作業

「木簡庫」の研究文献目録拡充のための論文リスト作成を行い、随時増補作業を行った。

⑤平城宮・京跡出土木簡のカラー撮影

約 1200 点の木簡について実施し、随時「木簡庫」に搭載した。

⑥平城宮・京の発掘調査成果に基づく平城宮・京紹介 CG 動画の制作

当初の計画には挙げていなかったが、平城宮・京の発掘調査成果に基づく平城宮・京紹介の CG 動画の制作を試みた。地図など 2 次元のデータだけでなく、3 次元データとのリンクを貼ることで、よりビジュアルに歴史環境を実感することができるようになると思われる。

成果物は「平城宮へのご招待～奈良時代の政治の中心地～」(平城宮紹介 CG 動画。約 8 分)と「平城京のまちなみ紹介～奈良時代の都のしくみ～」(平城京紹介 CG 動画。約 6 分 30 秒)の 2 本で、2021 年 3 月より平城宮跡資料館で公開している。これらの制作にあたっては、文化庁の文化財多言語解説整備事業の国庫補助も受け、英語・中国語・韓国語の多言語解説を整備した。

(2) 平城宮、平城京出土木簡のグローバル資源化

①海外研究機関との研究交流・データベース連携

奈文研として共同研究を進めている韓国国立文化財研究所との間では、2018 年度に国立伽耶文化財研究所・国立扶余文化財研究所を訪問し、出土木簡の調査を行うとともに、奈文研の木簡研究とデジタルアーカイブについて紹介し、今後の連携について協議した。中国社会科学院歴史研究所との間では、2019 年度到北京を訪問し、今後との連携についての協議を行った。また、この際には、北京にて木簡・簡牘に関する国際シンポジウム(第 1 回日中韓簡牘国際論壇)を開催し、三国の研究者間で共通認識をもつ絶好の機会を得た。機関相互の間でも、中国社会科学院歴史研究所、韓国国立文化財研究所と今後の連携について意思疎通を図った。

しかし、2019 年末からの COVID-19 の感染拡大により、韓国・中国の海外機関との連携は、直接的な推進の機会を得ることが困難になった。オンラインによる台湾中央研究院歴史語言研究所などとの交流など、限定的なものに留めざるを得なくなった。このため、木簡など出土文字資料に関するデータベース連携について、具体的な成果は挙げられなかった。今後の奈文研の機関としての人的交流の継続に期待したい。

なお、2021 年度に韓国慶北大学が企画した国際シンポジウム「木から紙へ 書写媒体の変化と古代東アジア」にオンラインで参加し、「日本木簡の廃棄と再利用」と題する報告を行って研究交流を深めるなど、一定の成果を挙げることができた。

②東アジア世界における木簡・簡牘との比較研究

当初論文集の刊行、またはシンポジウムの開催などによる研究成果の公開を考えていたが、COVID-19 の感染拡大をはじめとする諸般の事情により、個別の研究成果発表に委ねることとした。東アジア世界の木簡・簡牘の研究、都城制研究を初め日本古代史研究と木簡の連携研究など、平城宮・京跡出土木簡のグローバル資料としての総合的検討の深化に寄与できたと考える。

(3) 報告書の刊行

2021 年度末に、最終報告書を『平城宮・京出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化』(課題番号 18H03597 2018 (平成 30) 年度～2021 (令和 3) 年度 科学研究費補助金基盤研究 (A) 研究成果報告書)として刊行した。総論、論考編、資料編の 3 部構成で、総頁は 312 頁である。A(2)「平城京編年史料集成(稿)」、A(3)「平城京居住者一覧(稿)」は、本書資料編に収載して公表した。なお、本書印刷版は少数の刊行にとどめざるを得なかったが、奈文研の学術情報リポジトリにおいて PDF 版を公開している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計54件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 21件）

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 平城京編年史料集成（稿） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化』 | 6. 最初と最後の頁 105-279 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 平城京居住者一覧（稿） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化』 | 6. 最初と最後の頁 281-303 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 文化財総覧WebGISシステムによる地理情報を付加した木簡・墨書土器など出土遺物・遺構のデータベース化 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化』 | 6. 最初と最後の頁 11-20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 日本古代木簡の廃棄と再利用 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 韓国慶北大学校人文学院H K + 事業団第4回国際学術大会報告集『木から紙へ 書写媒体の変化と古代東アジア』 | 6. 最初と最後の頁 609-628 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 平城京木簡の建築名称 - 皇后宮職と長屋王邸 - | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化』 | 6. 最初と最後の頁 21-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 東アジアの文字交流と論語 - 韓半島論語木簡を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 木簡と文字 | 6. 最初と最後の頁 15-32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Trung Tan Ngo, Hung Tuan Nguyen and Masaki Nakagawa | 4. 巻 2021-33 |
| 2. 論文標題 Neural Network-based Local Feature Descriptors for Matching Excavated Mokkan Fragments of Various Sizes | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 信学技報 (IEICE Technical Report) | 6. 最初と最後の頁 51-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Yuichi Takata, Peter Yanase | 4. 巻 58 |
| 2. 論文標題 The Production, Preservation and Dissemination of Archaeological Data in Japan | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 Internet Archaeology | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11141/ia.58.11 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 高田祐一 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 2021年度数字で見る全国遺跡報告総覧 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 - オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元 データ・GIS - | 6. 最初と最後の頁 205-212 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24484/sitereports.115736-63548 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高田祐一 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧 - When Where Whatで検索できるシステムを目指して | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 - オープンサイエンス・Wikipedia・GIGAスクール・三次元 データ・GIS - | 6. 最初と最後の頁 14-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24484/sitereports.115736-63518 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 高田祐一 | 4. 巻 82 |
| 2. 論文標題 日本全国の文化財を地図で閲覧できる「文化財総覧WebGIS」の公開 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 奈文研ニュース | 6. 最初と最後の頁 1-2 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高田祐一 | 4. 巻 85 |
| 2. 論文標題 様々な文化財情報を検索できる「全国遺跡報告総覧」 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 明日への文化財 | 6. 最初と最後の頁 72-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 平城宮 課題と展望 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 広瀬和雄・山中章・吉川真司編『講座畿内の考古学』（雄山閣出版） | 6. 最初と最後の頁 132-160 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 倉庫令復元研究覚書 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 奈良史学 | 6. 最初と最後の頁 7-22 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 畑野吉則・馬場基・桑田訓也・高野祐一 | 4. 巻 2020 |
| 2. 論文標題 史的文字データベース連携検索ポータルサイトの公開 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 48-49 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 馬場基 | 4. 巻 |
| 2. 論文標題 竹簡について | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 日韓文化財論集（奈良文化財研究所学報第100冊） | 6. 最初と最後の頁 255-269 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Kha Cong Nguyen, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa | 4. 巻 Vol. 133 |
| 2. 論文標題 Nom document digitalization by deep convolution neural networks | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Pattern Recognition Letters | 6. 最初と最後の頁 8-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.patrec.2020.02.015 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 Nam Tuan Ly, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa | 4. 巻 Vol. 136 |
| 2. 論文標題 An attention-based row-column encoder-decoder model for text recognition in Japanese historical documents | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Pattern Recognition Letters | 6. 最初と最後の頁 134-141 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.patrec.2020.05.026 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 現代都市と古代都市 平城京の雑踏から渋谷の街を照射する | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 都市史研究 | 6. 最初と最後の頁 61-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 井上聡 | 4. 巻 31 |
| 2. 論文標題 所史史料調査の現状と展望 本所所蔵『往復』を中心に | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 284-303 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 韓国から見た『雑種文化論』 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 三浦信孝・鷲巣力編『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』（水声社） | 6. 最初と最後の頁 367-389 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 新羅・百済木簡と日本木簡 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 金文京編『東アジア文化講座2 漢字を使った文化はどう広がっていったのか 東アジアの漢字漢文文化圏』（文学通信） | 6. 最初と最後の頁 61-76 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 聖徳太子碑文と<作者> | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 ハルオ・シラネ、鈴木登美、小峯和明、十重田裕一編『<作者>とは何か 継承・占有・共同性』（岩波書店） | 6. 最初と最後の頁 105-109 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 角谷常子 | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 長沙五一広場出土の君教簡・牘 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 奈良史学 | 6. 最初と最後の頁 42-61 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 角谷常子 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 秦漢行政文書における「移」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 中国古代簡牘の横断領域的研究 (http://www.aa.tufs.ac.jp/users/Ejina/note/note.html) | 6. 最初と最後の頁 1 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 梶子遺跡第23次調査出土木簡の概要 文書函とその機能 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 浜松市教育委員会『梶子遺跡第23次調査発掘調査報告書』 | 6. 最初と最後の頁 141-146 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 平城京の歴史的 position 遷都とその契機 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 奈良文化財研究所『藤原から平城へ 平城遷都の謎を解く』 | 6. 最初と最後の頁 7-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 158 |
| 2. 論文標題 平城京 平城宮中心建物の大極殿と朝堂院 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 週刊日本の城 (デアゴスティーニ・ジャパン) | 6. 最初と最後の頁 1-6 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 158 |
| 2. 論文標題 平城宮正門の朱雀門と宮城十二門 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 週刊日本の城(デアゴスティーニ・ジャパン) | 6. 最初と最後の頁 7-10 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 158 |
| 2. 論文標題 奈良盆地北部を京域とした条坊制都城 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 週刊日本の城(デアゴスティーニ・ジャパン) | 6. 最初と最後の頁 11-14 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 159 |
| 2. 論文標題 天平文化と権力闘争に彩られた都 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 週刊日本の城(デアゴスティーニ・ジャパン) | 6. 最初と最後の頁 9-12 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 159 |
| 2. 論文標題 平城宮跡を歩く | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 週刊日本の城(デアゴスティーニ・ジャパン) | 6. 最初と最後の頁 13-18 |
| 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------------|
| 1. 著者名 Nam Tuan Ly, Kha Cong Nguyen, Cuong Tuan Nguyen and Masaki Nakagawa | 4. 巻 Vol. E102-D, No.8 |
| 2. 論文標題 Recognition of Anomalously Deformed Kana Sequences in Japanese Historical Documents | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 IEICE Trans. on Inf. & Syst. | 6. 最初と最後の頁 1554-1564 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1587/TRANSINF.2018EDP7361 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 855 |
| 2. 論文標題 書評と紹介 橋本義則著『日本古代宮都史の研究』 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本歴史 | 6. 最初と最後の頁 92-94 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 61 |
| 2. 論文標題 鳥羽市神島の歴史と現在 漁村集落の空間復原 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 81-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 井上聡 | 4. 巻 831 |
| 2. 論文標題 研究資源の生成・活用をめぐる | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 歴史評論 | 6. 最初と最後の頁 16-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 文字媒体とその機能 日本における石碑文化の継受をめぐって | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 角谷常子編『古代東アジアの文字文化と社会』 | 6. 最初と最後の頁 43-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 日本における情報伝達媒体と石に刻む文化 Media for transmitting information in Japan and the tradition of inscribng stone | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『Law and Writing Habits in the Ancient World 文字文化からみた東アジア社会の比較研究』 | 6. 最初と最後の頁 1-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 梶子遺跡第19次調査出土木簡の概要 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 浜松市教育委員会『梶子遺跡19・20次(本文編)』 | 6. 最初と最後の頁 369-374 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 平城京の歴史的位置 遷都とその契機 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 奈良文化財研究所『藤原から平城へ 平城遷都の謎を解く』(奈文研第10回東京講演会予稿集) | 6. 最初と最後の頁 2-5 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏・方国花 | 4. 巻 2018 |
| 2. 論文標題 木簡データベース・木簡庫の公開 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 20-21 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 耽羅鯨をめぐる耽羅と日本の交流 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 大韓民国国立済州博物館 『耽羅 The Ancient State of Jeju 』 | 6. 最初と最後の頁 242-257 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 末代誠仁, リー・トゥアン・ナム, グエン・コング・カー, 中川正樹, 山本和明 | 4. 巻 22 |
| 2. 論文標題 階層化された情報システムのためのくずし字解読機能の試作 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 日本情報考古学会講演論文集 | 6. 最初と最後の頁 11-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高田 祐一 | 4. 巻 研究報告第21冊 |
| 2. 論文標題 発掘調査報告書の電子公開による情報発信とその新たな可能性 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 | 6. 最初と最後の頁 73-78 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24484/sitereports.33189 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高田 祐一 | 4. 巻 337 |
| 2. 論文標題 全国遺跡報告総覧における学術情報流通と活用の取り組み | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 カレントアウェアネス | 6. 最初と最後の頁 15-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 高田 祐一・永島 幹大 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 考古学ビッグデータの可視化技術とアクセス性向上の実践例 機械学習による画像認識と統計的自然言語処理技術を用いて | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 文化財の壺 | 6. 最初と最後の頁 12-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 国武貞克, 小沼美結, 高田祐一 | 4. 巻 2018 |
| 2. 論文標題 文化財情報の多国間連携による研究基盤の高次化 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 18-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 近世神島の漁業と租税体系 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 青山史学 | 6. 最初と最後の頁 5-18 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 北村優季 | 4. 巻 60 |
| 2. 論文標題 平安京の住人 左京と右京 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 69-88 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 角谷常子 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 後漢時代の刻石流行の背景 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 角谷常子編 『古代東アジアの文字文化と社会』 | 6. 最初と最後の頁 61-86 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 集安高句麗碑から見た広開土王碑の立碑目的 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 角谷常子編 『古代東アジアの文字文化と社会』 | 6. 最初と最後の頁 175-196 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 鬼塚洋輔, 大山航, 山田太造, 井上聡, 内田誠一 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 花押類似検索のための畳み込みオートエンコ - ダによる画像特徴抽出 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 じんもんこん2018論文集 | 6. 最初と最後の頁 252-262 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 井上聡, 谷昭佳, 高山さやか | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 東京大学史料編纂所における史料デジタル撮影のあらましについて | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 埼玉県地域史料保存活用連絡協議会報 | 6. 最初と最後の頁 10-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小口雅史 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 細井浩一「同床異夢」か「異榻同夢」か 日本文化の資源化に関する研究と政策」へのコメント | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『日本研究をひらく 「国際日本研究」コンソ - シアム記録集2018 』 | 6. 最初と最後の頁 156-158 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計37件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 21件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 日本古代木簡の廃棄と再利用 |
| 3. 学会等名 「木から紙へ 書写媒体の変化と古代東アジア」（韓国慶北大学校人文学術院H K + 事業団 第4回国際学術大会）（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 李成市 |
| 2. 発表標題 接境地域における文字伝達 - 憲康王12年「木書十五字」を中心に - |
| 3. 学会等名 「接境と辺境、そして文字生活」（韓国中央大・韓国外大HK接境人文学研究団、韓国木簡学会）（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Tan-Trung Ngo, Hung Tuan Nguyen and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 A-VLAD: An End-to-End Attention-based Neural Network for Writer Identification in Historical Documents |
| 3. 学会等名 Proc. 16th International Conference on Document Analysis and Recognition (ICDAR 2021) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nam Tuan Ly, Hung Tuan Nguyen and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 2D Self-Attention Convolutional Recurrent Network for Offline Handwritten Text Recognition |
| 3. 学会等名 Proc. 16th International Conference on Document Analysis and Recognition (ICDAR 2021) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Tan-Trung Ngo, Hung Tuan Nguyen, Nam Tuan Ly and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 Recurrent neural network transducer for Japanese and Chinese offline handwritten text recognition |
| 3. 学会等名 Proc. 1st Workshop on Document Images and Language (DIL 2021) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nam Tuan Ly, Trung Tan Ngo and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 A Self-Attention based Model for Offline Handwritten Text Recognition |
| 3. 学会等名 ACPR (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高田祐一, ヤナセ・ペーテル |
| 2. 発表標題 全国遺跡報告総覧：日本考古学の最大規模のデータベース |
| 3. 学会等名 The 11th Conference of Japanese Association for Digital Humanities (JADH2021) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 井口奏大, 高田祐一 |
| 2. 発表標題 地域学習や文化財防災に役立つ文化財総覧WebGIS |
| 3. 学会等名 第13回地理院地図パートナーネットワーク会議 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 高田祐一 |
| 2. 発表標題 考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧 - When Where Whatで検索できるシステムを目指して - |
| 3. 学会等名 日本考古学協会第87回総会研究発表 セッション4 オープンサイエンス時代の考古学・埋蔵文化財情報 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 野口淳, 青木和人, 荒井翔平, 高田祐一, 三好清超, 大矢祐司, 木村聡 |
| 2. 発表標題 文化財×Wikipedia 地域における考古学・文化財情報発信の方法として |
| 3. 学会等名 日本情報考古学会第45回大会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 木簡からみた阿波国の古代 |
| 3. 学会等名 第2回アワコウコ楽公開講座講演会（於レキシル徳島）（招待講演） |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Trung Tan Ngo, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 A Siamese Network based approach for matching various sizes of excavated wooden fragments |
| 3. 学会等名 Proc. International Conference on Frontiers in Handwriting Recognition, (ICFHR) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hung Tuan Nguyen, Tsubasa Nakamura, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 Online trajectory recovery from offline handwritten Japanese kanji characters |
| 3. 学会等名 Proc. International Conference on Pattern Recognition, (ICPR) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kha Cong Nguyen, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 A Semantic Segmentation-based Method for Handwritten Japanese Text Recognition |
| 3. 学会等名 Proc. International Conference on Frontiers in Handwriting Recognition, (ICFHR) (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 李成市 |
| 2. 発表標題 日本における韓国木簡研究の特徴 東アジア木簡研究への展望 |
| 3. 学会等名 慶北大学校人文学院 + HK事業団、国際学術大会「古代東アジア文字資料研究の現在と未来 韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に」 (招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 李成市 |
| 2. 発表標題 東アジアの文字交流と論語 韓半島の論語木簡を求めて |
| 3. 学会等名 国際学術会議「東アジアにおける論語の伝播と桂陽山城」韓国木簡学会、韓国仁川市桂陽山城博物館(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 李成市 |
| 2. 発表標題 日本国号の成立時期とその国際的契機 |
| 3. 学会等名 第12回東アジア人文学フォーラム「典範轉移 - 東亞文化的互動與整合」、台湾大学(国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 馬場基 |
| 2. 発表標題 史的な文字データベース連携検索システムの公開(日題) |
| 3. 学会等名 古代東アジア文字資料研究の現在と未来(日題)(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 馬場基 |
| 2. 発表標題 2020年度 KU-ORCAS 国際シンポジウム デジタルヒューマニティーズ推進のための環境構築とその課題 |
| 3. 学会等名 史的文学DBとその利活用について(1)(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 馬場基 |
| 2. 発表標題 奈良時代のパンデミックと社会 |
| 3. 学会等名 第58回 日本医療・病院管理学会学術総会(WEB開催)(招待講演) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 日本木簡の調査、その現状と課題 |
| 3. 学会等名 第1回日中韓出土簡牘研究国際論壇(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 平城宮・京の木簡 |
| 3. 学会等名 首都師範大学講演会(招待講演)(国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 平城宮の神祇官と大嘗宮 |
| 3. 学会等名 大神神社 三輪山セミナー（2019.10）（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 長屋王家・二条大路木簡の発見と平城京 |
| 3. 学会等名 第169回奈良学文化講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 前川歩 |
| 2. 発表標題 第一次大極殿院南門の復原 |
| 3. 学会等名 奈良文化財研究所第124回公開講演会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 井上聡 |
| 2. 発表標題 東京大学史料編纂所における字形データの蓄積経緯と花押データへの展開 |
| 3. 学会等名 CODHシンポジウム「日本文化とAIシンポジウム2019 AIがくずし字を読む時代がやってきた」（招待講演） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 北村優季 |
| 2. 発表標題 現代都市と古代都市 平城京の雑踏から渋谷の街を照射する |
| 3. 学会等名 都市史学会大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kha Cong Nguyen, Seiji Hotta and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 A Character Attention Generative Adversarial Network for Degraded Historical Document Restoration |
| 3. 学会等名 Proc. 15th International Conference on Document Analysis and Recognition, Sydney, Australia (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nam Tuan Ly, Cuong Tuan Nguyen and Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 An attention-based end-to-end model for multiple text lines recognition in Japanese Historical Documents |
| 3. 学会等名 Proc. 15th International Conference on Document Analysis and Recognition, Sydney, Australia (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Hung Tuan Nguyen, Cuong Tuan Nguyen, Masaki Nakagawa |
| 2. 発表標題 Text Segmentation for Japanese Historical Documents using Fully Convolutional Neural Network |
| 3. 学会等名 じんもんこん2019 (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 末代誠仁 |
| 2. 発表標題 階層化された情報システムのためのくずし字解読機能の試作 |
| 3. 学会等名 日本情報考古学会第42回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 岡谷陽平, 白井啓一郎, 宮尾秀俊, 丸山稔 |
| 2. 発表標題 木簡画像データベース用の単色・カラー画像の判別法および木簡領域の検出法の検討 |
| 3. 学会等名 画像センシング技術研究会画像センシングシンポジウム (SSII) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 岡谷陽平, 白井啓一郎, 宮尾秀俊, 丸山稔 |
| 2. 発表標題 木簡画像に対するSVMを用いた背景領域の検出法の検討 |
| 3. 学会等名 電子情報通信学会信越支部大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 高田祐一, 昌子喜信, 矢田貴史 |
| 2. 発表標題 行政における文化財情報の電子化と発信：埋蔵文化財行政のデジタル技術活用の動向 |
| 3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 高田祐一 |
| 2. 発表標題 全国遺跡報告総覧と考古学ビッグデータの可能性 |
| 3. 学会等名 奈良文化財研究所第123回公開講演会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 李成市 |
| 2. 発表標題 国際化の中の日本研究 歴史研究を中心に |
| 3. 学会等名 第3回東アジア日本研究者協議会国際学術大会（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 渡辺晃宏 |
| 2. 発表標題 平城京の歴史的位置 遷都とその契機 |
| 3. 学会等名 奈良文化財研究所第10回東京講演会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計9件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 野口淳, 高田祐一, 樋上昇, 堀木真美子, 中村耕作, 三好清超, 中尾智行, 今井邦彦, 青木和人, 荒井翔平, 木村聡, 市川博之, 市川希美, 大矢祐司, 三好清超, 藤井幸司, 清水乙彦, 喜多耕一, 森本幹彦, 石井淳平, 佐々木宏展, 宮澤優子, 川崎志乃, 遠藤守, 千葉毅, 林正樹, 岩村孝平, 藤田友香里, 浦井直幸, 神田和彦 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 奈良文化財研究所 | 5. 総ページ数 217 |
| 3. 書名 デジタル技術による文化財情報の記録と利活用 | |

| | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 渡辺晃宏 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 新泉社 | 5. 総ページ数 96 |
| 3. 書名 日本古代国家建設の舞台 平城宮 | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小口雅史・河内祥輔・M=メルジオヴスキ・E=ヴィダー編 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 思文閣出版 | 5. 総ページ数 272 |
| 3. 書名 儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 内田和伸・桑田訓也・今井晃樹・小田裕樹・神野恵・福嶋啓人・渡辺晃宏 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 奈良文化財研究所 | 5. 総ページ数 250 |
| 3. 書名 奈良の都、平城宮の謎を探る | |

| | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 著者名 奈良文化財研究所編 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 岩波書店 | 5. 総ページ数 162 |
| 3. 書名 木簡 古代からの便り | |

| | |
|-------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 都市史学会編、北村優季・渡辺晃宏・馬場基著（共著） | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 670 |
| 3. 書名 日本都市史・建築史事典 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 角谷常子（編） | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 汲古書院 | 5. 総ページ数 287 |
| 3. 書名 古代東アジアの文字文化と社会 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 闘争の場としての古代史 東アジア史のゆくえ | 5. 総ページ数 401 |
| 3. 書名 岩波書店 | |

| | |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 李成市 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 Edi tusソウル | 5. 総ページ数 219 |
| 3. 書名 東アジア世界の実践と理論 流動する古代 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

木簡庫
<https://mokkanko.nabunken.go.jp/>
 文化財総覧WebGIS
<https://heritagemap.nabunken.go.jp/>

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 中川 正樹 (Nakagawa Masaki) (10126295) | 東京農工大学・学内共同利用施設等・特任教授 (12605) | |
| 研究分担者 | 末代 誠仁 (Kitadai Akihito) (00401456) | 桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授 (32605) | |
| 研究分担者 | 金田 明大 (Kaneda Akihiro) (20290934) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・埋蔵文化財センター・センター長 (84604) | |
| 研究分担者 | 高田 祐一 (Takata Yuichi) (50708576) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・企画調整部・研究員 (84604) | |
| 研究分担者 | 小口 雅史 (Oguchi Masashi) (00177198) | 法政大学・文学部・教授 (32675) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 北村 優季 (Kitamura Masaki) (20177869) | 青山学院大学・文学部・教授 (32601) | |
| 研究分担者 | 井上 聡 (Inoue Satoshi) (20302656) | 東京大学・史料編纂所・准教授 (12601) | |
| 研究分担者 | 李 成市 (Ri Sonshi) (30242374) | 早稲田大学・文学学術院・教授 (32689) | |
| 研究分担者 | 角谷 常子 (Sumiya Tsuneko) (00280032) | 奈良大学・文学部・教授 (34603) | |
| 研究分担者 | 白井 啓一郎 (Shirai Keiichiro) (00447723) | 信州大学・学術研究院工学系・准教授 (13601) | |
| 研究分担者 | 前川 歩 (Maekawa Ayumi) (60711984) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員 (84604) | |
| 研究分担者 | 馬場 基 (Baba Hajime) (70332195) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・室長 (84604) | |
| 研究分担者 | 山本 崇 (Yamamoto Takashi) (00359449) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・室長 (84604) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|--|--|----|
| 研究 分 担 者 | 鈴木 智大 (Suzuki Tomohiro) (60534691) | 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員 (84604) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 | | | |
|--------------|----------------|--------|--------|--|
| その他の国・地域（台湾） | 台湾中央研究院歴史語言研究所 | | | |
| 中国 | 中国社会科学院歴史研究所 | 首都師範大学 | | |
| 韓国 | 国立文化財研究所 | 慶北大学 | 韓国木簡学会 | |